

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2019年 2月 15日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子殿

2018年度地域啓発活動助成

活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

老いても、病んでも、住み慣れた処で暮らすまちづくり

活動団体名： 一般社団法人緑の杜

活動者（助成申請者）名： 太田 緑

活動報告書

1. 活動の目的

- ① 住み慣れた地域で暮らすための市民への啓発活動を行う
- ② 誰もがいつでも相談できるよろず相談所場所の開設

2. 活動の内容・実施経過

・毎月多職種および地域住民の方と意見交換の場を設け、研修会や座談会で住み慣れた処で最期まで過ごすために必要なものについて話し合った。

・ミニ暮らしの保健室の開催や暮らしの保健室をプレオープンして、地域の方に啓発活動を行った。また、アンケートや相談を実施し、内容をまとめた。

3. 活動の成果

- ① 地域にどんな場所が必要かを話し合う中で、具体的な意見がでた。
- ② 地域住民への啓発活動にはさらなる工夫が必要だとわかった。(広報の仕方等)
- ③ 住民は、公的な病院や役所の相談窓口には相談しにくいと思っていること、さらには自分が住むそばの相談場所には行きにくいことがわかった。
- ④ 暮らしの保健室が相談場所であると認識されるとそれ以外の人は利用しにくく、啓発活動の場（住み慣れた処で最期まで暮らすための自助互助のまちづくりを考える場）の意義が弱くなることがわかった。
- ⑤ 新聞2社の地方版に取り上げられたことで、暮らしの保健室プレオープンの約

2 か月で、10 件の問い合わせと 4 件の相談があり、今後の継続を期待する声が多数寄せられた。

4. 今後の課題

- ① まちづくりに専門職ではない地域住民に参加していただくための方法を検討する必要がある。
- ② 活動を周知するための広報を検討する必要がある。
- ③ 自力で維持継続するための場所や資金についての検討が必要である。

5. 活動の成果等の公表予定

第 9 回日本在宅看護学会学術集会での発表に演題申し込み予定